



全国読書週間が始まります！

10月27日(木)
~11月9日(水)



10月27日(木)から11月9日(水)までの期間は、全国読書週間です。読書の秋という言葉もあるように、多くの本に触れる機会です。図書委員企画として『図書館クイズ』を行います。たくさんの方の参加をお待ちしています。



~図書館クイズ~ 図書委員企画！

期間中に本を借りた人へクイズの問題を渡します。それを解いて応募し、全問正解した人の中から抽選で6名に景品が当たります。日替わりで問題を用意していますので、1日1回、毎日でも挑戦が可能です。



~雑誌のプレゼント~



処分する雑誌や付録を希望者にプレゼントします。先着順なので、欲しい雑誌がある人はお早めに。



~ポイント制度も引き続き実施中~



本を1冊借りるごとにポイントカードにひとつスタンプを押し、10個たまったらプレゼントと交換します。プレゼントは手作りブックカバー、ミサンガしおりなど。

全校一斉読書会

ご協力をお願いします！

11月2日(水)7限ホームルームの時間に、全校一斉読書会が行われます。各クラスの図書委員が進行を行いますので、ご協力をお願いします。

1年生

『チヨ子』 宮部みゆき著

2年生

『マジック・アワー』 関口尚著

3年生

『話を聞かせて』 山本文緒著

各学年、とても面白い短編小説です。
読書会を楽しんで下さいね。



お知らせ

11月27日(月)~28日(月)
の期間、司書不在及び研修会
実施のため、図書館が、
終日閉館 となります。

図書委員おすすめ本



(文藝春秋)



(メディアファクトリー)



(文藝春秋)

『帰宅部ボーイズ』 はらだみずき著

入部した野球部になじめない直樹、喧嘩早くクラスで浮いた存在のカナブン、いじめられっ子のテツガクの3人が共に過ごしたかけがえのない時間。喧嘩、初恋、友情、そして別れ。帰宅部の人はもちろん、部活に入っている人にも読んでもらいたい1冊です。(2-3長尾)

『ブッタとシッタカブッタ』 小泉吉宏著

この本は、4コマ漫画で、誰でも気軽に読むことができる本です。ものを見てから心が生まれて、どうやってもものを見ているかが大切になる。ものの見方でのあり方や見え方が変わることを教えてくれる本です。とてもおもしろいです。(3-2佐藤)

『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾・千恵・はな著

母親が亡くなり、少しでも父親を助けようと、小さな少女が精一杯に頑張る姿が、心にグッとくるものがありました。みなさんもぜひ読んで、自分の姿と見比べてみてください。(3-5麻生)



おすすめの新着図書

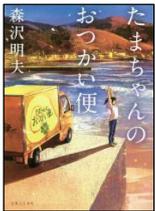
『アンマーとぼくら』 有川浩著

休暇で沖縄に帰ってきたリョウは、親孝行のため「おかあさん」と島内を観光する。1人目の「お母さん」はリョウが子供の頃に亡くなり、再婚した父も逝ってしまった。観光を続けるうち、リョウは何かがおかしいことに気がつく。



(講談社)

『たまちゃんのおつかい便』 森沢明夫著



(実業之日本社)

大学を中退したたまちゃんは、過疎化と高齢化が深刻な田舎町で「買い物弱者」を救うため、移動販売の「おつかい便」をはじめ。しかし、悩みやトラブルは尽きない。それでも、誰かを応援し、誰かに支えられ、にっこり笑顔で進んでいく。

映画を読み 図書館へ



『何者』 朝井リョウ著 (新潮社)

2016年10月
映画化!

就活の情報交換をきっかけに集まった5人の大学生。自分を生き抜くために必要なことは、何なのか。影を宿しながら光に向けて進む、就活大学生の自意識をリアルにあぶりだす長編。新作アナザーストーリー『何様』もあります。



『海に見える理髪店』 荻原浩著

伝えられなかった言葉。忘れられない後悔。もしも「あの時」に戻ることができたら…。近くて遠く、永遠のようで儚い家族の日々を描く物語六編。誰の人生にも必ず訪れる、喪失の痛みとその先に灯る小さな光が胸に染みる家族小説集。



(集英社)

『陸王』 池井戸潤著



(集英社)

足袋作り百年、従業員20名の地方零細企業が、ランニングシューズに挑む。世界的ブランドとの熾烈な競争、資金難、素材探し、開発力不足。立ち上がる困難に、伝統と情熱、仲間との強い結びつきで立ち向かう。

『下り坂をそろそろと下る』 平田オリザ著

人口減少、待機児童、地方創生、大学入試改革…。日本が直面する重大問題の本質に迫り、あらためて、日本人のあり方について論考する。



(講談社)

花言葉 知っていますか?

きんもくせい

「気高い人」

中国原産の常緑樹。中国では桂花と呼び、欄、茉莉花という、香りの良い花3種を特別愛でる風習があったようです。



『誕生花366の花言葉』(大泉書店)より

ちよつと一息

詩の世界へ

草原の夜

金子みすゞ

ひるまは牛がそこにいて、
青草食べていたところ。

夜ふけて、
月のひかりがあるいている。

月のひかりのさわるとき、
草はすすすとまたのびる。

あしたもごちそうしてやると。

ひるま子どもがそこにいて
お花をつんでいたところ。

夜ふけて、
天使がひとりあるいている。

天使の足のふむところ、
かわりの花がまたひらく、
あしたも子どもに見せよう。

『みすゞ詩画集 秋』より

詩・金子みすゞ 画・栗原佳子

(春陽堂書店)